

シード明暗 深志不覚



① 2回戦 ②

第100回全国高校野球選手権記念長野大会は11日、松本市野球場など4会場で2回戦12試合を行い、中信勢はAシードの松商と松本第一、Bシードの松本国際が順当勝ちした。Aシードの深志は中野立志館との投手戦の末に1-3で敗れ、初戦で姿を消した。松本工、南安曇農も3回戦進出はならなかった。12日は2回戦12試合を行う。
(高校野球取材班)

「小林ツインズ」の夏が終わった。
1年生から活躍し、深志を優勝候補にまで押し上げた立役者の小林綾(3年)と小林絃(同)の双子の兄弟。プロが注目するまでに個の力を高め、それに仲間も刺激されてチー



双子で追った夢霧散

ム力を伸ばしてきた。今大会、優勝候補の一角として甲子園を目指したが、初戦でその夢は打ち砕かれた。最後まで投げ抜いた主戦の小林綾は「このチームでもう野球ができないことが信じられない。こらえていた涙があふれた。中野立志館の主戦は奥内屈指の左腕で、試合前から投手戦が予想された。先制した深

主戦の小林綾

主将の小林絃

志だったが4回に追い付かれ、6回に1点を勝ち越された。終盤も多くの得点が望めない中、小林綾は「もう、どうしても点はやりたくない」と力が入った。その気持ちの菌車がわずかに狂い、7回に投前のバント処理で野選、三



【深志-中野立志館】深志6回の守備で、マウンドに駆け寄って主戦の小林綾(中央)に声を掛ける小林絃(右)

深志の屋台骨 共に支える

小林綾は言う。「絃とは小学生、中学生とずっと一緒に野球をやってきたが、この先の進路は分かれるかもしれない。分岐点として、高校では今まで以上に力を入れてやってきた」。一緒に、本気で甲子園を目指した夏だった。
(山浦雄一郎)

林絃は誰よりも先にマウンドに駆け寄り「力むな」と声をかけ続けた。「おかげで力を抜いて投げられる場面もあった」と小林綾。兄弟だからこそ分かる間合いで、3失点こそしたが最後まで投げ抜けた要因の一つだった。
エース、主将という重責を担ってきた2人。小林絃は「エースとして頑張ってくれた。投手としては綾に負けているが、そのおかげで自分の長所の打撃を伸ばせた」と振り返る。最も近くにいる常に比べられる相手。良きライバルとして高め合えたことに感謝する。

選手コメント

優勝候補の佐久長聖に力負けした松本工の小野光士郎主将(3年)
(昨夏の3回戦で、延長15回で敗れた佐久長聖に思い切りぶつかったが、初回の満塁から流れを引き寄せられなかった。悔しいが、最後まであきらめずに自分たちの力を出し切れたと思う。)